

長谷川慶太郎「投資レポート」

長谷川慶太郎公式サイト「投資の王道」
<http://www.hasegawa-report.com>

長谷川慶太郎「投資レポート」平成22年1月15日
会員専用ページ <http://www.hasegawa-report.com/member/>

■国内よりもアジアの新興国で収益を上げる企業に注目

●販売台数世界1位を確保して自動車の主戦場になった中国市場

日本の来年度予算案の公共事業関係費は前年度比約18%減の5兆8000億円に縮小されました。公共事業が減ることもあって、今年はやはり国内よりも海外市場での収益に期待できる企業が有望です。

特に注目されるのがインドや中国などのアジアの新興国ですが、経済の成長ぶりを如実に表しているのが自動車市場にほかなりません。まずインドでは2009年の新車販売台数が前年比14%増の226万台となりました。このうち乗用車市場で約5割のシェアを誇るのがスズキです。

スズキは昨年12月にGM（ゼネラル・モーターズ）と合弁を解消した直後、ドイツのVW（フォルクスワーゲン）との提携を発表しました。VWとしては今から単独でインドに出て行っても基盤を築くには時間がかかります。インドに強いスズキの協力が得られればその時間がかなり節約できるのです。

スズキも積極的に中国に進出したいと考えています。2009年にVWは中国で第2位の140万台という販売台数を記録しました。つまり、VWはインドに、スズキは中国にそれぞれ狙いがあるため、両社の提携はまさにお互いを活用できるウィンウィンの関係になろうということです。

日本の自動車メーカーではホンダもインドに進出しているのですが、これまで中・高級車中心で苦戦してきたため、今後は低価格の小型車に力を入れてシェア拡大を図っていくという方針を立てています。

それで中国ですが、中国の自動車メーカーの業界団体である中国汽車工業協会は1月11日、2009年の新車販売台数（中国内生産分のみ）が前年比46.2%増の1364万4800台に達したと発表しました。これは米国の約1.3倍に当たり、初めて世界1位の座に就いたのです。中国汽車工業協



会は2010年には1500万台に達するという予測も同時に発表したのですが、もはや世界の自動車市場の主戦場は中国になったといえます。比亞迪汽車や奇瑞汽車といった中国メーカーのほか、日本（日産・トヨタ・ホンダ）、米国（GM・フォード）、ドイツ（VW）などのメーカーがこれまで以上に激しい販売競争を繰り広げることになるでしょう。

●電気自動車の需要は新興国よりもやはり米国が有望

では、今、日本や米国で注目されている電気自動車は中国ではどうなるのか。

中国に限らず新興国の場合、電気自動車が主流になるのはずっと後になるでしょう。というのも、電力のインフラが整備されておらず電力が十分に確保できないという事情があるからです。

したがって、電気自動車にとって最有力の市場はやはり米国になります。米国では今年後半からGMが「シボレー・ボルト」、日産が「リーフ」を発売する予定ですが、三菱自動車も電気自動車の販売を開始するはずです。

電気自動車はその原理がすでにわかっているのも、技術的な面ではどのメーカーも大差なく、横一線でのスタートとなります。その結果、どのメーカーがリードしていくのか、まだわかりません。

米国の景気については今は横ばいですが、米国の電気自動車市場が本格的に動き出せば、ものすごく大きなインパクトがあります。

米国の労働省が1月8日に発表した2009年12月の雇用統計によると、非農業部門の雇用者数は前月比で8万5000人の減少となりました。しかも、2009年通年の雇用者数の減少幅は416万4000人と過去最悪でした。失業率（軍人を除く）は10%と前月並みの水準で、失業者数は1526万7000人に達しています。そのなかには2年以上も失業している長期失業者も少なくありません。

（サンプル版ここまで正規版ではさらに分析が続きます。）